

戦没者に祈りを～西原町戦没者追悼式を挙行



日露戦争以来の大戦にかけて戦争で犠牲になった御霊の冥福と恒久平和を願う「平成25年西原町戦没者追悼式」が、11月8日に西原の塔で行われました。今年の追悼式は10月25日に予定されていたもので、台風の影響でこの日に延期されましたが、多くの関係者が参列し、戦没者に祈りを捧げました。

上間明町長は式辞で「今なお地中には遺骨が眠り、不発弾の処理が残っている。戦後は終わっていない」と述べるとともに「恒久平和に努めることは私たちの重責。『命どう宝』を後世に伝え続けるため、各種平和施策を推進していく」と決意を誓いました。また、西原町遺族会の與那城博司会長は「戦後、今日までの復興、目覚ましい発展は、多くの尊い犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは忘れない」と追悼の言葉を述べました。

また追悼式に引き続いて、無縁墓や工事で発見された遺骨、身寄りなく亡くなった方の遺骨などを一時的に収容する西原町納骨堂で慰霊祭が行われました。

故宮平吉太郎元町長が叙位受章

元西原村・町長の故宮平吉太郎氏が、正六位の叙位を受章することになり、10月21日に故宮平氏の次男、宮平武さん（写真右）に対し、位記（位を記したもの）の伝達式が行われました。

故宮平氏は昭和43年に西原村長に就任。本土復帰の際の新制度への移行を先導しました。町制施行した昭和54年からは初代西原町長を務め、合計4期16年にわたって行政運営に尽力しました。

位記を伝達した上間明町長は「極めて困難な時代の中、地方自治で手腕をふるわれた。筆舌に耐えがたい苦労があったと思うが、今日の西原の発展は故宮平氏の功績のたまもの」と、故人の家族に喜びと感謝を伝えました。



まちの話題

2013

西原産シマナーそばが学校給食に！

西原町の畑で収穫されたシマナーを原料に作られた「シマナーそば」が、10月17日に西原中、西原東中の学校給食に登場しました。



この日は「沖縄そばの日」となっており、地産地消の一環で1220食が振る舞われました。

現在西原町では、使われていない農地（耕作放棄地）を再生する「耕作放棄地解消対策事業」を実施しており、その一環でシマナー生産に取り組んでいます。今回のそばは（株）農業生産法人西原ファームが生産したシマナーをペースト状に加工し、オキコ（株）（仲田龍男代表取締役社長）が麺に練りこんで製麺したものです。

西原中には上間明町長などが訪れ、上間町長は3年1組の給食に参加。黄緑色の色鮮やかな麺を生徒と一緒に味わい、感想などを聞きました。

紅芋菓子を通じて、農業や6次産業の発展を

（株）オキコストア（代表者 銘刈敏明）が紅芋ペーストを練りこんだ新しいお菓子を開発したことを受け、10月15日に西原町商工会（濱門稔会長）とともに上間明町長のもとを訪れ、意見交換を行いました。



今回発売した「紅いもころころ」に使われている紅芋は西原町を中心に県内各地で栽培されたもので、紅芋からペーストへの加工を宇池田にある農業生産法人マルシェ沖繩（比屋根由美代表）が製造。町商工会は「町と連携して、西原の特産品を目指してPRしていきたい」と語りました。

町建設部産業課では、農作物の生産から加工、流通販売などが関わる6次産業化につながる取組で、現在取り組んでいる「耕作放棄地解消対策事業」と連携して、紅芋の生産振興を図りたい意向を示しました。

西原児童館の子どもたちが手作り地域安全マップで表彰

通学路や遊び場など身近な場所を調べ、安全性や危険な場所をまとめて地図にする「地域安全マップ」のコンテスト「第7回沖縄県子供地域安全マップコンテスト（ちゅううちなー安全なまちづくり推進会議主催）」で、西原児童館の「なかよし西原っ子」チームが応募した作品が、最優秀賞に次ぐ県警察本部賞を受賞しました。

西原児童館からは初めて応募した作品で、子どもたちが5人1チームを組んで制作しました。地図作りにあたっては、フィールドワークで地域を回って、危険な箇所をチェック。保護者や地域の民生委員の協力を得ながら完成させた作品とのこと。地域を回りながら海拔をチェックし、地図には海拔ごとの色分けをするなどの工夫が凝らされました。



受賞の報告を受け、上間明町長は「このような成果は、大きな思い出になると思う。大いに自信を持ってほしい。日ごろから地域安全マップを参考にして、安全に暮らせるようにこれからもがんばってください」と子どもたちを励ました。



町民の伝統文化活動の成果を展示

西原町文化協会（新里勝弘会長）の6部会による「第12回西原町合同展示会」が、10月11日から13日の3日間、西原町中央公民館で開催されました。

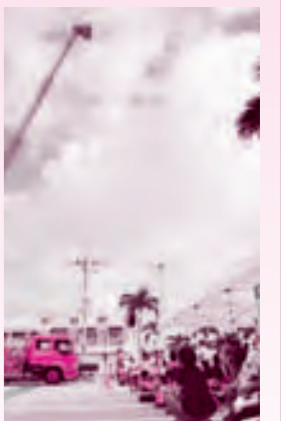


11日の開会セレモニーで新里会長が「たくさんの町民に会員の力作を見てもらい、指導をいただきたい」と開催への思いを述べ、上間明町長は「多くの町民が文化に触れ、楽しめる機会。文教の町の文化力を町内外に発信していただきたい」とあいさつしました。

展示会には、写真、美術工芸、書道、華道、茶道、花卉園芸の部会が出品。120点余りの作品が並んだ会場には3日間で390名が訪れ、来場者は作品を鑑賞して芸術の秋を堪能しました。

防火イベントで火災予防をPR

空気が乾燥し、火災の危険性が高まる冬場を前に、防火意識の高揚を図ることを目的に、11月9日に防火イベント（東部消防組合消防本部主催）がサンエー西原シティで開催されました。



「平成25年度秋季全国火災予防運動」の一環として行われたこのイベントでは、西原高校マーチングバンド部やさくらんぼ保育園の園児が演舞を披露。また、はしご車の実演や消火器の操作体験、消防職員による寸劇で住宅用火災警報器の重要性をアピールするなどして、買い物客などに火災予防を呼びかけました。

また、タレントのいずみ&やよいさんが1日消防長を務め、イベントを華やかに盛り上げました。

県畜産共進会で園田さんの牛が優秀賞の快挙！

県内で生産される家畜を品評し、畜産農家の経営安定と畜産振興の発展を目指し、平成25年度第39回沖縄県畜産共進会の種畜部門が、11月8日に南部家畜市場で開催されました。西原町の農家からは、町及び中部地区の共進会で上位の成績を収めた、園田三郎さんが出品する「よしみ」号が唯一、成雌1類（月齢24か月以上48か月未満の母牛）の部に出場しました。北部や離島など、畜産の盛んな地域からも多くの牛が出品され、審査の結果、「よしみ」号は2位に相当する優秀賞に選出されました。西原町からの出品牛が県畜産共進会で入賞するのは快挙で、畜産農家や関係者からは喜びの声が上がりました。

